

猛暑の夏もようやく落ち着き、秋の気配が感じられるようになってまいりました。処分場の工事現場でもトンボなどの秋の昆虫が見られるようになりました。今号では現在行っている敷地造成の状況についてお知らせいたします。



新最終処分場完成予定図(県作成)



R6.8.27 ドローンで撮影

埋立地の敷地造成工事を実施しています

現在、廃棄物を埋め立てる予定の敷地部分の造成工事を進めています。“ズリ”と呼ばれる盛土材料を締固め、何層にも重ねることで、敷地部分が埋め立てる廃棄物の重さに耐えられるように造成しています。具体的には、ブルドーザーで盛土材料を均一な厚さに敷均し、次に振動ローラーによる締固めを行っています。詳しい工事の方法については、裏面に掲載しています。



ブルドーザーでの盛土材料の敷均し



振動ローラーでの締固め

【お問い合わせについて】

担 当：一般財団法人 茨城県環境保全事業団 新最終処分場整備日立事務所
電 話：0294-33-8731 E-mail: seibi@ef-kasama.or.jp
その他：工事に関するお知らせは、茨城県環境保全事業団の
ホームページ(<https://ef-kasama.or.jp/newfacility/info>)
又は二次元コードからご確認いただけます。



現場だより

現在、処分場の埋立地の基盤となる、敷地造成のための盛土工を進めています。今回は、盛土工の工事の手順や、使用している重機等について、ご紹介いたします。

盛土工ってなに？

新たに土を盛って、盛った土を締め固めることで、土地等を造成する工事を盛土工といいます。処分場の工事では、岩盤の上に、30cmずつ盛土を行い、埋立地の形状を作ります。



盛土工に使用している重機

アーティキュレートダンプ



240万m³という大規模な盛土を実施するため、通常より運搬能力の高いアーティキュレートダンプを使用します。

振動ローラー



盛った土に振動を与え、土を締め固めます。締固めに必要となる通過回数は、人工衛星により管理しています。

自走式破碎機

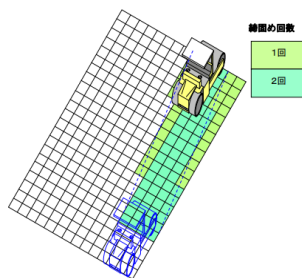


場内の巨石は、本来撤去が必要ですが、自走式破碎機で細かく破碎することで、盛土の材料として活用できます。

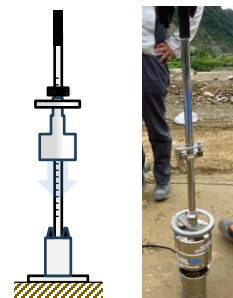
盛土工の品質管理

工事では、振動ローラーが間違いなく、締固めに必要な回数を通じたか確認するため、人工衛星による測位を利用した「TS-GNSS」と呼ばれる技術を利用して、振動ローラーの通過回数を管理しています。

また、盛土材料に比較的大きな粒径の石が含まれるため、「小型FWD」という測定機器を利用して、地盤の剛性を測定し、品質確認を行っています。



<TS-GNSSによる回数管理>



<小型FWDによる品質管理>

処分場建設工事中の環境モニタリング

工事中の環境モニタリングの結果

● 水質(7月測定)

工事現場からの雨水排水を測定したところ、工事の影響はほとんどなく、すべての測定項目で基準未満でした。

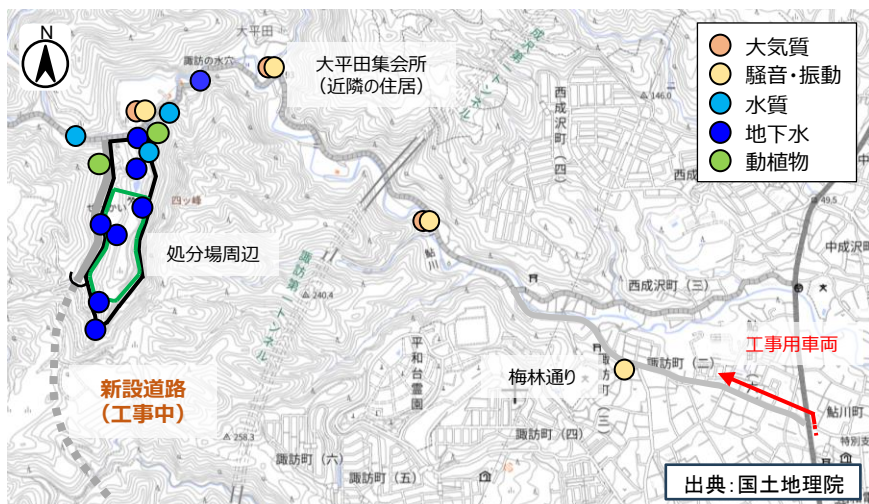
● 地下水(7月測定)

処分場周辺に設置しているモニタリング井戸の水質を測定したところ、工事の影響はほとんどないことを確認しました。

環境モニタリングの詳細な結果は、事業団のホームページで公開しています。



処分場建設工事中の環境モニタリング結果



処分場建設工事中の環境モニタリング実施地点